民話現地探訪　真田地区

山家神社　記録

2023. 7. 15

研修日時　２０２３年７月１日　１３：３０～１５：００

説明　　山家神社　押森 慎（まこと） 宮司（54 代）

週１回、雅楽会を行っている。
「神人和楽」で神楽も行う。

＜発祥＞

元は、旧字古坊（ふるぼう）に鎮座。

857 年 6 月 16 日の暴風雨により、社殿が崩壊し押し流され、現在地に。
　神主 清原眞人某、姓を押森に改称。→ これより 54 代目

＜祭神＞

中央　　：大国主神（大己貴神（おおむなちのかみ））… 土地の神様（産土神（うぶすながみ））

左（向かって右）：伊邪那美神
右（向かって左）：菊理媛神

＜白山信仰＞

718（養老 2）年　泰澄の弟子浄定（きよさだ）が四阿山を開山。

718（養老元）年
　泰澄：夢想の中に貴女の姿で現れた白山山頂の白山妙理大菩薩に招かれ、弟子二人（臥・浄定）を連れて白山に登る。池の中から九頭竜王が姿を現したが、本身ではないことを見抜くと十一面観音に変貌した。
　臥（ふせり）行者：鉢を飛ばして米を手に入れる「飛鉢法」を使う。能登出身
　浄定（きよさだ・じょうじょう）行者：出羽出身の元船頭
　　御前峰（ごぜんがみね）：神＝白山妙理大菩薩／本地＝十一面観音
　　大汝峰（おおなんじみね）：神＝大己貴／本地＝阿弥陀如来
　　別山：神＝小白山別山（おじらやま）大行事／本地＝聖観音

民話との繋がり
　元々、白山男神がいて、白山女神母・娘がやってきた。
　　⇒ 伊邪那美・菊理媛が勧請されたことと意味づけられるのではないか。

四阿山行者書

山頂奥宮の配置
　中央：最初は石造り。大国主神（鏡）／阿弥陀仏（掛け仏）。
　左（向かって右）＝東宮（ひがしのみや）・群馬寄り：伊邪那美神／千手観音
　右（向かって左）＝西宮（にしのみや）：菊理媛神／十一面観音

民話との繋がり

○白山男神が湯を投げ、草津の湯になった。
　⇒ 鉱泉がないことの謂れ
○白山男神がゴマで芽をつぶした。
　⇒ 江戸時代、目の神様として信仰された。
　　目を大きく描いた絵馬（20 枚ほど）が奉納されている。
　　（傍陽に褐鉄鋼の産地がある。）
○吉田堰（女堰）の開通
　⇒ 白山から、水利技術も伝播したと推察される。
○白山女神のお供の弥五
　⇒ 浄定行者が想定される。
　　四阿山には摂社が 150 社あったが、今は半数。その中に弥五の宮がある。
　　弥五の宮は、山家神社内にも、山口の白山比咩神社内にもある。
　　浄定（きよさだ）社もあり、浄定は山では花童子（げどうじ）行者とも称され、山を開いたと考えられる。
○「義経の握り飯」「頼朝の射抜いた的岩の穴」などもある。
○雨乞い… 山に行って水を汲み、止まらずにリレーして駆け下り水を撒くと雨が降る。
　⇒ 「山家日誌」に、雨乞い神事の記載がある。
　　四阿山に水が出ている場所「嬬恋清水」があったはずだが、場所不明。
　　２年前に崖から落ちて遭難した人が、「万望滝」と彫られていた所で水を飲んで助かる。
　　場所は不明だが、沢沿いに汲んだ水をバトンリレーできる。
　　竹筒のレプリカがある。
　　萬歳旗に「上塩尻・鼎（東御）」ほか遠隔地の地名が読める。
　　山家神社周辺は水が豊富。外からの来訪者が水を求めていた。
　　上小の延喜式神社
　　川の東側にあるのは山家神社のみ。生島足島神社・塩野神社・子檀嶺神社は川の西側。
　　神川＝加賀川
　　1400 年に鰐口が奉納され、以後、全国に広がる。
　　宮参りにも、山の水をリレーして用いる。
○疾病平癒
　⇒ 白山権現が山家神社にもたらしたと考えられる事象
　　白山草が病気を治す薬として用いられた。
　　山の行者と薬草の繋がりが考えられる。
　　四阿山に、ツウキサン（法方）がある。
　　神川の周りに「白山」の名が多い。
　⇒ 逆パターン（こちらから加賀へ）も考えられる。
　　こちら側が薬草に詳しかったということも。

＜神仏混淆から廃仏毀釈へ＞
真田信幸のお触れにより、山家神社を三者で納める。
　仏教＝白山寺（松木家）
　神道＝神主（押森家）
　修験道＝行者（松尾家）… 薬・お札 … 白蛇神社＝松尾社　＊御嶽講
明治の神仏分離により、仏教・修験道が排斥される。… 民間の修験道（御嶽信仰など）が残る。
　諏訪大社には五重塔があったが、神仏分離令翌日に取り壊された。
　山家神社の仏像は、近隣の寺に移動。
　　十一面観音像 → 実相院
　　仁王門の仁王像 → 文殊堂
　　国分寺資料館 → 鏡（ミショウタイ）
明治 20 年、火災により山家神社消失。資料・文献残っていない。松木・松尾家の資料が手がかり。